

視聴覚教育

No. 78

発行日

56.12.1

発行

岡崎市AVL

編集

広報委員会

●全国自作視聴覚教材コンクール

二年連続全国入選の快挙

●ビデオ作品「とつろうづくり」が入選

視聴覚自作委員会と現職教育社会科部の合同で製作したビデオ教材「とつろうづくり」が、全国視聴覚教材コンクールでみごとに入選した。来る十二月十九日東京で表彰される。

この作品は、昨年度から新たに手がけている「社会科自作ビデオ教材大系」(五年間で二十五本を予定)のうちの一本で、小学校五年生を対象に十二分にまとめたものである。製作には、杉浦修(根石小)・内田明夫(矢東小)先生をチーフにし、六名のスタッフが一かがかりであった。この「とつろうづくり」は、昨年度の県コンクールでも優秀賞を受けており、二重の喜びとなったわけである。

伝統産業を扱う五年生の社会科では、なくてはならぬ教材でも

あり、すでに多くの学校で利用いただいた。今後も大いに活用していただきたいものである。

●昭和五十六年度視聴覚教育奨励賞

働之婦人会館が受賞

岡崎市働く婦人会館では、かねてからテレビを利用して学習を続けているが、この度、「テレビっおかあさんの勉強室」を使って「生涯教育の実践」と題し、九年間の実践を論文にまとめて応募し、今年度の視聴覚教育奨励賞(社会教育部門)を受賞した。自作教材と同様、来る十二月十九日東京で表彰される。

岡崎市自作ビデオ作品の結果

今年度は五十九点の応募があり、四十点が入選と決まりました。入賞作品は県の方へ再応募している。なお、表彰は、一月に行つ「アナライザー」研修研究会」の席で行つ予定。

県視聴覚教材コンクール
締切迫る!!

提出期日 57年1月7日(木)

提出先 ライブラリー

その他 詳細については、

教育公報一三二二号
を参照のこと。

研修会報告

●放送教育研究会全国大会に参加して

常磐小 岡田金二

11月12・13日、山口県下で開催された当研究会では、「放送による学習」を「形象（映像と音像）との対話」という立場から研究が進められていた。対話とは、放送を視聴しながら、「いったい何だろうか?」「おかしいな」「なるほど」「もっと調べてみよう」というような自己自身への自問自答であり、自己の心の働きと見た。「形象との対話」の中から、ひとりひとりのイメージをまとめ高めていく視聴後の発展学習もすばらしい。

●アナライザー研修会を終えて

矢北中 後藤晶基

アナライザーは、子どもひとりひとりの学習状況をより正確に客観的に把握でき、「つまづいている子」「理解不足の子」の発見と指導には、すばらしい威力を発揮する。しかし、「できた」「できない」等評価的な使い方には、弊害も多い。あくまで、子どもひとりひとりを、生かすための機軸として活用したい。本年度、この機軸が各校に導入されると聞き、東京での11月13・14日の研修には、特に熱が入ったと思う。



ミニ情報 アフレコとは……

アフターレコーディングの略で、和製英語、映像を再生し、それを見ながら必要箇所にはナレーションや効果音などを録音すること。VTRでは、アフレコのボタンを押して、マイクがライン（テープレコーダーやプレイヤー）の入力に音声を入れればよい。

新規購入教材

このほど、「天界」(喜太郎)等効果音用シレココード13枚と全園方言全集(テープと解説書1巻)を購入了しました。大いに利用してください。

ライブラリー

冬より

一学期の配達サービスは15日(火)まで、最終回収は21日(月)です。なお、年末の最終の返却日は23日(水)ですので、それ以後は貸し出し、ダビング等を停止いたします。また、三学期の最初の配達は1月12日(火)からです。来庁の場合は、1月4日(月)から貸与されます。

貸し出し・配達のお知らせ

12月のサークル

- とき 12月12日(土) PM 6:00
- ところ 六名町たつき書房2F
- ながみ 読書会「視聴指導 24章」